

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	情報メディア演習				
担 当 者	山岡紀子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.4	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価調査にご協力いただき、ありがとうございました。</p> <p>動画を作成して Teams 上でプレゼンテーションを実施するという初めての経験に戸惑うことも多かったと思いますが、グループで前向きに取り組む姿勢に感心しました。その過程で「大切な情報を患者さんに確実に伝えるにはどうすればよいか」について考え、聴く側の立場に立ってプレゼンテーションを実施する必要性に気付かれたことをうれしく思います。</p> <p>本授業の改善点として『教室が寒く PC が固まってしまう事がよくあった』とのご意見がありました。広い教室ではエアコンが効きにくい場所ができてしまうことで、学生さんだけではなく PC にも影響することが判明した貴重なご指摘をありがとうございます。この件を含め、看護学科の学生さんに必要なスキルを的確に教授するため、授業の更なる向上に努めます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	地域看護学概論				
担 当 者	山岡紀子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.7	4.7	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価調査にご協力いただき、ありがとうございました。</p> <p>第1回授業で、当初「地域看護学概論って何するの?」という表情をされていた皆さんが、終盤は真剣なまなざしに変わった姿が印象に残っています。看護を提供する場が医療現場から地域へ拡大している今、すべての看護職にとって地域看護学の内容は不可欠であると理解していただけたと思います。地域で働く様々な看護職がどこでどのような活動を行っているのかを本授業で学習したことで、今後の選択肢を広げる一助となれば幸いです。</p> <p>本授業において改善すべき点についてのご提案はありませんでしたが、看護学科の学生さんに必要な知識等を的確に教授するため、授業の更なる向上に努めます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	健康相談の理論と方法				
担 当 者	伊東愛				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.4	4.4	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>感想ありがとうございます。『健康相談の理論と方法』は、選択科目ですが、毎年、多くの方が履修してくれます。講義科目ですがペアワークやグループワークを取り入れているため、事前課題が必要になっています。授業時間以外の学習時間が比較的少なく、効率的に課題を遂行しているのかなと思いました。人数に対する教室の狭さ、天井吊り下げモニターが見切れる、虫が入って来るなどの環境面について、多くの意見が出ていたと思います。改善してもらおうよう、伝えたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	公衆衛生看護学概論				
担 当 者	伊東愛				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.6	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>感想ありがとうございます。『公衆衛生看護学概論』は、保健師養成課程の履修を検討されている方が履修しています。理論や理念など抽象的なことを扱う科目ですので、できるだけ具体的な事象・事例を盛り込んで説明しましたが、分かりにくい・分からないことも多々あったと思います。履修者は少人数ゆえにアットホームな雰囲気でした。グループワーク課題はかなり難しいテーマでしたが、それぞれ考えを練って、真剣に挑まれ、心強く思いました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	医療・看護特論				
担 当 者	尾崎雅子、岩切由紀、谷口由佳、横山利枝、島内敦子、西村充弘、宇多みどり、中田康夫				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.5	4.4	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>本科目は4年間で学んだ看護実践に必要な知識の修得状況の確認を目的に、4年生の後期に配置しています。国家試験を目前にして、課題に取り組む皆さんの姿を見てみると、「4年間経ったのだなあ」と感慨深く思うと同時に、何とか国家試験に合格してほしいという願いを込めながら授業を進めました。</p> <p>授業評価の結果は学科平均とほぼ同様の結果でした。カテゴリーⅠ（学生自身）の4.0は全体から比べると低かったですが、「この科目に意欲的に参加」が4.59と高く、国家試験合格という目的意識をもった結果だったと思いました。看護の7領域（基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅）と専門基礎の計8分野からオムニバス形式で授業を行いました。各分野の特徴もあり、授業方法はそれぞれ異なりましたが、この時期の授業では学生の皆様自身が自らの学修状況を確認して、何をすればよいのか考えていただくことが重要だと思いました。</p> <p>最後になりましたが、授業評価へのご協力をいただき有難うございました。この結果を次年度以降に活かしていきたいと思います。</p> <p>担当者一同、皆様の今後のご活躍を期待しております。</p> <p style="text-align: right;">（尾崎雅子）</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	3		
科 目 名	母子支援実習 I				
担 当 者	横山利枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.8	4.6	4.5	4.7	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>実習は、これまで講義や演習で学んできた知識・技術を、子どもとの実際の関わりを通して深めていきます。</p> <p>今年度から、1週目を保育施設実習、2週目を病棟実習という構成に変更しました。保育施設実習では、授業で実施した健康教育のプレゼンテーションをもとに、実際に子どもたちへ健康教育を行いました。実施に向けて、企画・内容検討・リハーサルを重ね、子どもたちが楽しみながら参加できる工夫や、理解しやすい伝え方を真剣に考えていました。その過程で内容はさらに深まり、みなさん自身も楽しみながら取り組んでいたことが印象的でした。また、子どもの反応を直接感じる経験を通して、子どもへの理解がより一層深まったのではないかと思います。さらに、保育施設での日常生活に実際に関わることで、子どもと関わる際に大切にすべき視点について考える貴重な機会になったと思います。</p> <p>2週目の病棟実習では、保育施設での経験が活かされ、早期から上手く患児と関わる姿が見られました。入院している子どもへの看護を考える際には、疾患の理解だけでなく、その疾患や入院が子どもの「生活」にどのような影響を与えているのか、そして回復を促すためにどのように生活を整えていくかという視点が重要です。看護の役割を考える上で、「生活」の視点をさらに意識できると、より深い看護実践につながると思います。また、子どもたちの経過は本当に早く、日々の関わりの中ではどうしても目の前の出来事や課題への対応に意識が向きがちです。そのため、一歩先を見据えた関わりを持つことの難しさを感じる場面も多かったのではないかと思います。これからは、日々の実践を大切にしながらも、少し先の姿を思い描き、見通しをもった関わりができる力を、さらに養ってほしいと思います。その積み重ねが、より深い理解と専門性につながっていくと思います。</p> <p>母子支援実習 I では、授業で得た知識と演習での学びを実践に活かすことができ、学びのつながりを実感できたのではないのでしょうか。この経験を今後の学習や実践にもぜひつなげていってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	老年援助論				
担 当 者	谷口由佳・八木良子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.4	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価へのご協力、ありがとうございました。</p> <p>この授業を通して、老年看護の実践者としてのあり方を皆さんと一緒に深く考えることができ、とても嬉しく思っています。本科目は2コマ続きの授業が15回続く長丁場でしたが、皆さんの協力のおかげでスムーズに進めることができました。心から感謝しています。</p> <p>3年次の療養支援実習Iでは、これまでの学びを活かして、老年期にある方々の社会生活をできるだけ豊かにする看護支援について、さらに探究してほしいと思います。</p> <p>最後に、授業評価の自由記述では、多くのご意見をいただきありがとうございました。率直なご意見や、時には厳しい指摘もありましたが、一つひとつ大切に受け止め、今後の授業に活かしていきたいと思っております。皆さんにまたお会いできるのを楽しみにしています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	看護対象論Ⅲ（老年）				
担 当 者	谷口由佳・八木良子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.6	4.5	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価へのご協力、ありがとうございました。また、地域の高齢者の方々をお招きした際には、丁寧で好感度の高い対応をしていただき、高齢者の方々も大変喜んでおられました。私たち教員だけではできなかったことですので、本当に感謝しています。</p> <p>この授業は、老年看護の対象となる「高齢者」を理解することを目的としています。授業では、高齢者の身体的・心理・社会的な変化を捉えながら、歴史的観点や生活史の視点、取り巻く社会の視点から、広い視野で高齢者を見つめ直しました。本授業をきっかけに、まずは高齢者に関心を持つことにつながっていれば嬉しく思います。</p> <p>皆さんからいただいた貴重なご意見は、今後の授業内容の精選や授業方法の工夫に活かしていきたいと思っております。また皆さんにお会いできることを楽しみにしています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	生活健康論				
担 当 者	谷口由佳				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.6	4.8	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価へのご協力、ありがとうございました。</p> <p>この授業は、生活と健康に関する基本的概念について学び、生活概念に基づくケアの考え方を理解することを目的としています。授業では、皆さん自身の生活体験から「生活の中の健康」をあらためて見つめ直すことを通して、生活観や健康観についての考えを深めることを目指しました。これまで当たり前で営んできた「生活」ですが、その成り立ちや変遷を辿りながら、「運動」や「睡眠」、「食生活」といった身近なテーマを通して、人々の「健康」や「健康に対する意識」にどのように影響しているのかを考えました。</p> <p>身近なテーマであるからこそ、関連する概念を難しい言葉で学んだり、自分の考えを文章や言葉にして表現したりすることは、難しかったかもしれません。しかし、授業評価ではいずれも3.7以上という高い評価が見られ、皆さんが本科目を看護の基盤となる重要な科目として捉え、真剣に学習に取り組んでくれていた成果だと嬉しく感じています。今後も、本科目で学んだことを基盤に、生活概念に基づくケアの考え方をさらに発展させていってほしいと思います。</p> <p>また、毎回の感想も楽しく拝見しました。温かい言葉をいただき、次の授業に向かう大きなエネルギーになりました。本当にありがとうございました。皆さんからいただいた貴重な意見は、今後の授業内容の精選や授業方法の改善に活かして、よりよい授業にしていきたいと考えています。次に皆さんにお会いできることを楽しみにしています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	地域包括ケア論				
担 当 者	谷口由佳・宇多みどり				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.3	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価へのご協力、ありがとうございました。</p> <p>地域包括ケア論では、地域包括ケアの基本理念や成立の経緯、目的・意義を理解するとともに、さまざまな発達段階や健康レベルにある人々への地域での健康支援やサービス提供の仕組みを学びました。また、保健・医療・福祉の多職種や地域の方々との連携、看護の役割についても理解を深め、地域で暮らす人々の望む生活の実現に向けた包括的な支援の大切さを考えました。特に認知症サポーター養成講座では、地域の高齢者の方々を講師に招き、直接お話を伺うことで、認知症や地域包括ケアについて身近に感じることができました。その体験について、普段なかなか聞けないお話を伺えたことや、地域の方々との交流が貴重だった、という声をいただき、とても嬉しく感じました。</p> <p>授業評価の自由記述では、レポートの量や資料の扱い方、機器の操作などについて、もう少し工夫が必要とのご意見がありました。今後の授業改善に役立てていきたいと思えます。</p> <p>今後も今回学んだことを基に、多職種連携の中での看護の役割や地域包括ケアの意義についてさらに探究し、実践につなげて行ってほしいと思えます。</p> <p>改めて、授業に真剣に取り組んでくださった皆さんに感謝します。またお会いできることを楽しみにしています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	養護実習Ⅱ				
担 当 者	伴仲 謙欣				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.4	4.4	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>教職課程の集大成でもある教育実習、たいへんお疲れ様でした。</p> <p>看護課程でも同様ですが、やはり実習は最も学びの実りを実感できる場面ではないでしょうか。巡回時の様子や各実習報告から、みなさんがいかに多くを学んだことが見て取れ、なによりも楽しく実習を行っていたことが印象的でした（当然大変なこともたくさんあったと思いますが・・・）。</p> <p>いま、看護課程だけではなく、それとは全く違う教職課程を修了したみなさんは、「2つの視点」を持ちました。これからはこの2つの異なる目でいろんなものを見てください。これがみなさんの強みです。今後の様々な場面で、教職課程の学びやライセンスが活躍することを願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4		
科 目 名	教職実践演習				
担 当 者	伴仲 謙欣				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.8	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>履修生のみなさん、授業お疲れ様でした。</p> <p>教職課程の達成、よくがんばりました！看護の勉強に加えて教職を履修することには、さぞかし大きな困難があったことと想像します。しかし、苦勞した時間や労力はすべてみなさんの基礎力になっています。やり切った経験は、自信にもつながっていることでしょう。これから看護師としてのキャリアが始まりますが、いつの日か、誰かが養護教諭として後輩に喝を入れに戻ってきてくれることを期待しています！</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	4	
科 目 名	保健医療福祉行政論			
担 当 者	味木 和喜子			
カテゴリー別授業評価調査結果				
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)
3.3	4.1	4.3	4.1	4.3
学生へのメッセージ				
<p>授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。多くの保健師が活躍する場である地方行政（都道府県・市区町村）の仕組みや、地域住民をより健康にしていくための計画・実践などについて、私自身の兵庫県行政での経験も踏まえ、国家試験の解説を通じて、できる限りわかりやすく説明するよう努めました。内容が多岐に渡りましたが、「多数の資料があったことで、理解が深まって良かった。また、予習、復習をする機会があることで積極的に学ぶことができた」とのコメントをいただき、嬉しいです。卒後すぐには保健師として働くことは無くても、いずれは行政で働きたいと思ってもらえるように、また、国家試験に対する自信を深められるように、今後とも努めていきます。皆様のご活躍をお祈りします。</p>				

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	公衆衛生学				
担 当 者	味木 和喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.5	4.5	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価アンケートに回答いただきありがとうございました。公衆衛生学という幅広い分野を、まずは一通り学んでいただきながら、日常生活や専門知識と結びつけて考え実践する習慣を身につけることを目指して15回の講義を準備しました。ほとんどの学生さんが、毎回の課題シートに向き合い、様々なコメント・意見を寄せていただいたことに心から感謝します。また実際に、生活習慣を見直し、体調や集中力の改善を感じたこと。環境に向き合い、自分でできる身近なところから実践したこと。感染症予防でインフルエンザシーズンを乗り越えたこと。食中毒予防の正しい知識を得たこと。などなど、自身や家族や社会の「健康」に対する認識や行動が変わり、効果を感じていただけたと思います。良い習慣はこれからも継続し、皆の健康を皆で守って行きましょう。看護に関する専門知識を積み重ねることで、公衆衛生に対する理解も深まり、実践がさらに広がることを期待しております。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	教育心理学				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.6	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>看護学科の科目の中でも、養護教諭免許関連科目は履修生が少ない授業が多いと思いますが、この科目については教育学部の学生との合同開講が可能であったため、みなさんにとっては、大人数の講義科目でした。人数が多いこともあって、なかなかおひとりおひとりの声を聞くことができませんでした。</p> <p>自由記述の中にも、「意見を言うと加点していたが、マイクを持って当てていくのは不平等だと思った」とありました。私がみなさんの挙手を待てずにマイクを持って当てていたことは確かですので、この点は直していきたいと思います。その他、「遅刻や遅延を本人に聞いていないことがあった」という意見もいただきました。理由の聞き取りができるように、遅刻者には入室時に用紙に書き込むなどのことをしていきたいと思います。</p> <p>また、教員採用試験を意識して講義をしているため、心理学の専門用語や研究者名など小テストや定期試験でも出題しました。教員採用試験での教育心理の範囲の出題割合は少ないですが、それだけに基礎的なところはきちんと正解を導いてほしいと思っています。そのためには教員採用試験の過去問を解くなどして、定期的に各回の復習をしておいてくださいね。</p> <p>ご意見ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	道徳教育と特別活動論				
担 当 者	京極重智				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	3.8	3.8	3.7	3.9	
学生へのメッセージ					
<p>数値評価については、学科平均と比べてどれも低い数値となっていました。自由記述がないためその要因を確定することは困難ですが、養護教諭を軸とするよりも、特別活動や道徳科を軸としたため、自らの進路とのつながりが見出しづらかったことが挙げられるように思います。また、今年度は対話的な授業になるように工夫をしましたが、それも今回の低い数値の理由だった可能性があります。次年度については、座学の色合いを強め、養護教諭との結びつきを強調したいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	大学道場 mini ゼミ				
担 当 者	鈴木志津枝				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.1	4.4	4.1	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業評価をしてくださった学生の皆様 授業評価をしていただきありがとうございました。</p> <p>全体の授業評価の結果として、「授業方法」の分野以外は、学科平均に比較して 0.1 から 0.3 ポイント低い結果でした。学生のご意見に対して、私の考えを述べます。</p> <p>学生自身の学習時間や授業への意欲を十分に高めることが不十分だったと思います。授業内容に関して一部の学生から難しいとの意見もあったのに、難しい点を学生自身が調べるという自己学習につなげることができなかったことを申し訳なく思います。</p> <p>授業方法に関しては、少人数のゼミであったこともあり、学生の反応を見ながら進行速度を合わせる事ができたと思います。この点は良かった点であると思います。</p> <p>学習成果として、いろんな家族についての知識を知れてよかったとの意見もありましたが、学生が満足できる深まりには達することができなかったのだと推察します。今後も家族に関心を持って、医療従事者になられたときに、患者のさまざまな家族形態の理解に活かしてもらいたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	教育方法・技術論				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	3.8	4.0	3.7	3.9	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、養護教諭が教育実践において活用できる教育方法の理論と実践を習得することを目的としてきました。幼児教育から高等学校までの教育課程を俯瞰し、理論や ICT 活用、学習環境の構成など、多角的な視点から「養護教諭にとっての教育実践とは何か」を共に考察してきました。</p> <p>皆さんの最終試験の記述からは、目標とした能力が着実に身につけている様子が伺え、また、毎回のふり返りレポートの記述を読むことは私にとって楽しみのひとつでした。</p> <p>一方で、今年度の授業評価の結果を拝見し、私の力不足により、皆さんにとって十分に満足のいく授業内容を提供しきれなかった点があったことを、真摯に受け止めております。特に説明の進め方や構成において、より改善の余地があったと反省しており、期待に応えられなかった皆さんには申し訳なく思っています。</p> <p>授業では、一方的な知識伝達を避け、自ら考えていただくためのグループワークを取り入れました。お伝えできる知識の絶対量は絞られる形となりましたが、対話を通じて心に残った何か、皆さんに定着していることを願って止みません。</p> <p>授業の中で何度もお伝えした通り、養護教諭の教育実践には無限の可能性があります。児童・生徒の一生の健康を支える要として、皆さんが現場で存分に活躍されることを心より期待しております。</p> <p>講義は一区切りとなりますが、教育方法や実践について、あるいは授業で解消できなかった疑問などがあれば、いつでも遠慮なく研究棟 5 階の研究室を訪ねてください。皆さんの歩みを、これからも応援しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	健康教育の理論と方法				
担 当 者	荒金英里子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.6	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>「健康教育の理論と方法」では、実際に、健康教育を企画し、実践してもらいました。一から考えて実践まで持って行くことは難しかったと思いますが、みなさんが楽しそうに準備されている姿はとても頼もしかったです。健康教育は、すべての年齢の方に、あらゆる場所で行うことができる支援方法の1つですので、今回の経験を、様々な看護の場で活かしてもらえたらと思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	2		
科 目 名	学校保健				
担 当 者	中西利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.4	4.5	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>この授業は中西・光安の二人で担当しました。15回授業内容のうち各教員の専門分野から、中西が保健教育と保健管理の対物管理・組織活動の分野を7回、光安が保健管理の対人管理（保健室管理）分野を7回担当し、初回の「オリエンテーション・学校保健とは」は中西が担当しました。</p> <p>テキストはあえて購入はせず、テキストの代わりとなる授業資料を各回配布しました。昨年度は、「資料の字が小さい」という自由記述がありました。授業資料は、A4横にスライドを4枚配置し印刷、配布しています。今年度は、見にくいスライドのみフルサイズで印刷し、授業資料の最後に付けた授業資料を準備しました。それにより、課題であった見にくさは改善されていたようで良かったです。</p> <p>筆記試験では、授業資料の持ち込み可だったのですが、みなさんがファイリングして持ち込まれている資料を見ると、付箋を付れたり、空欄を埋めるにあたりメモを記述していたりと、授業資料を完成させ、真面目に授業に取り組んでおられる様子がうかがえました。授業評価は学科平均とほぼ同程度でした。が、授業に関する「学生自身」の取り組みについては、例年学年平均より低くなっています。出席状況において、3回以上欠席者が77名中19名だったことと関連すると思われます。うち、4～5回の欠席者は9名でした。火曜日1限目であったこともあり、成人式明けの1月13日の授業欠席者は33名でした。成人式翌日については、一生に一度のことですのでやむを得ないと思います。</p> <p>提出物については、多くの学生が丁寧に仕上げている中、中には、是非次年度の受講生への見本に活用したいような完成度の高いものもありました。</p> <p>保健師資格取得、養護教諭一種免許取得をめざす学生さん、取得をめざしてがんばってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	看護学科	学 年	1		
科 目 名	英語コミュニケーション2				
担 当 者	千石真理				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.6	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>専門科目で大変な中、頑張って英語を勉強して頂きました。グローバル化が進む中、将来の職場で、英語が益々必要になりますので引き続き勉強を継続して下さい。</p>					